

卒業後の進路 ～職業別・産業別 就職率を中心に

Contents

Part.1 状況別卒業者と 職業別・産業別就職率について	p48
Part.2 大学の取り組み 静岡大学	p52
広島修道大学	p54

大学を みる

視点

このコーナーでは、大学が公表する教育・研究に関する情報などから、高校生の大学選びなどに活用できるものについて紹介していく。今回のテーマは、「卒業後の進路～職業別・産業別就職率を中心に」である。大学卒業後のキャリアを描く上で重要な情報であり、また、大学のカリキュラムの特徴や取り組みの力点の理解にもつながる情報である、卒業後の進路について、職業別・産業別就職率を中心に見ていく。なお、この記事では、「就職者等」に対する「職業別・産業別就職者数の割合」を「職業別・産業別就職率」とする。

Part.1では、朝日新聞社×河合塾 共同調査「ひ

らく 日本の大学」2020年度調査の結果や、大学改革支援・学位授与機構の「大学基本情報」をもとに作成したデータから、状況別卒業生、職業別・産業別就職率の概要を紹介する。

Part.2では、状況別卒業生、職業別・産業別就職率のデータを踏まえながら、大学の具体的な取り組みを見ていく。実学重視の技術者教育を行い、卒業生の多くが「技術者」として就職する静岡大学工学部と、地域の産業構造を踏まえた教育を行い、「事務・販売従事者」を中心に、幅広い業種に卒業生を輩出している広島修道大学商学部を紹介する。

Part.1 状況別卒業生と職業別・産業別就職率について

状況別卒業生数、職業別・産業別就職者数は、毎年学校基本調査で調査されており、朝日新聞社×河合塾 共同調査「ひらく 日本の大学」でも、状況別卒業生数は毎年、職業別・産業別就職者数は隔年で調査を行っている。

なお、今回紹介したデータ^(注1)は、学校基本調査の区分^(注2)を参考にしているが、大学のホームページ等の就職状況を参照する際には、集計の方法が異なる場合があ

るので、注意が必要だ。

◆状況別卒業生<図表1・2>

図表1と図表2は、2019年4月1日から2020年3月31日までに学士課程を卒業、修士課程・博士課程前期を修了した学生の進路について、「大学院等進学者」「就職者等」「臨床研修医」「その他」^(注3)としてそれぞれまとめたものである。

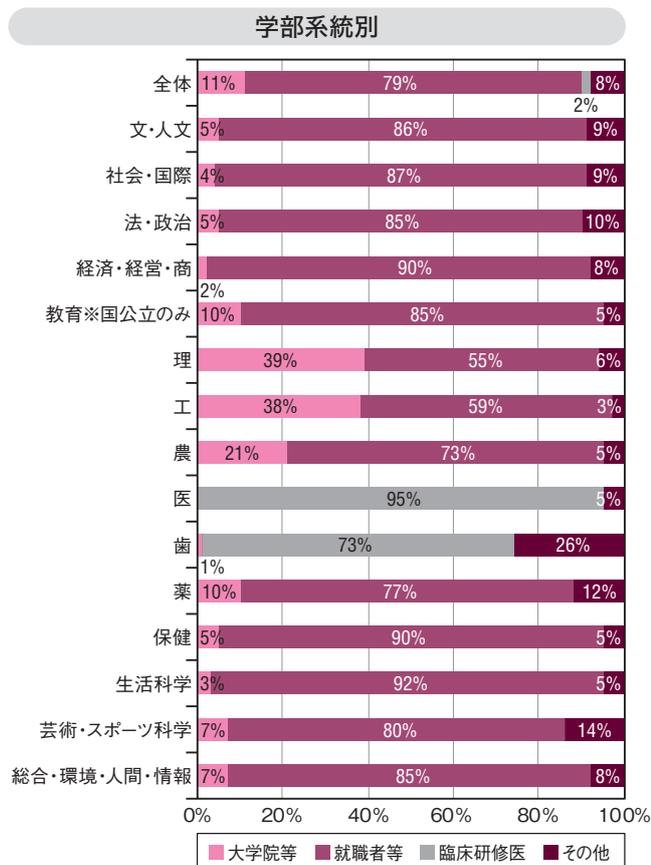
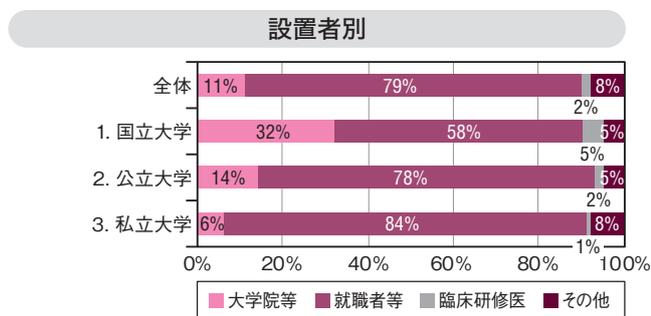
(注1) 今年度の「ひらく 日本の大学」調査では、状況別卒業生数、職業別・産業別就職者数について、私立大学のみを対象に回答してもらい、国公立大学に関しては、「ひらく 日本の大学」に回答した大学のみ、2020年度の大学改革支援・学位授与機構「大学基本情報」(<https://portal.niad.ac.jp/prtr/table.html>)を用いて集計を実施した。

(注2) 学校基本調査では、総務省の日本標準職業分類と、日本標準産業分類によって職業・産業を分類している。

学士課程では、卒業者に占める「大学院等進学者」の割合（以下、大学院等進学率）は11%、「就職者等」の割合（以下、就職率）は79%、「臨床研修医」2%、「その他」は8%だった。

設置者別に見ると、国立大学で大学院等進学率が約3割と高い。学部系統別^(注4)に見ると、大学院等進学率は、理学系、工学系が約4割と高い。就職率では、文系は85～90%と概ね高く、中でも経済・経営・商学系は9割と最も高い。理系では、保健系、生活科学系は約9割と高い。なお、医学系、歯学系は、卒後臨床研修が必須であり、医学系では95%、歯学系は73%が臨床研修医となる。ただし、歯学系では、国家試験準備中の者を含む

<図表1> 2019年度学士課程卒業後の進路概況



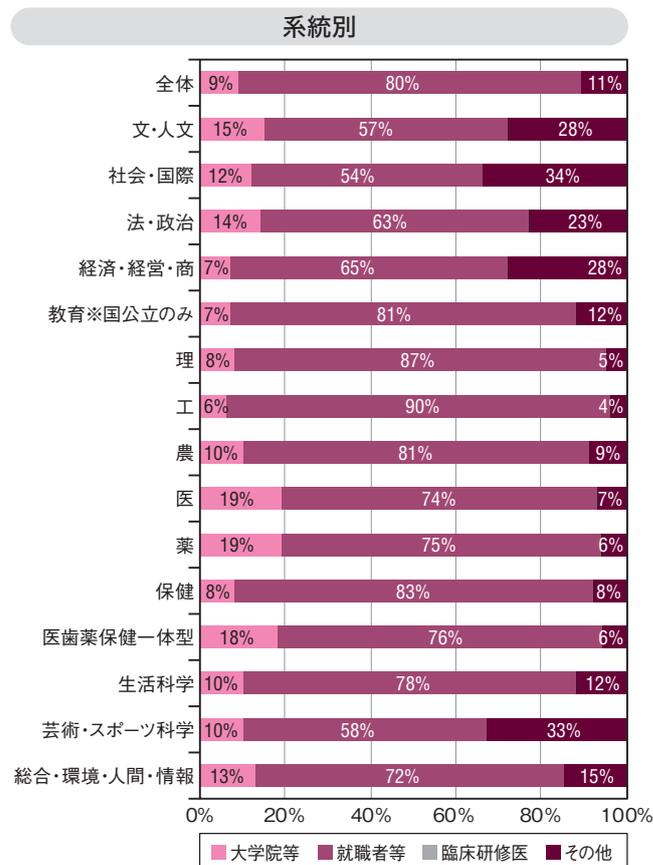
「その他」も26%と高い。こうした設置者別・学問系統別に見られる傾向も過去の調査と比べて変化がなく、概ね例年通りの傾向となっている。

また、「修士課程」「博士課程（前期）」の修了後の進路については、大学院等進学率は9%、就職率は80%、「その他」は11%だった。設置者による大きな違いはない。系統別に就職率を見ると、文系の研究科よりも理系の研究科で高くなり、学士課程卒業者の状況と逆転する。具体的には、理学系、工学系、農学系、保健系では8割を超える。一方、文系の研究科では教育学系（※国立大学のみ）の約8割を除くと、人文・社会科学系の就職率は6割程度である。なお、人文・社会科学系と芸術・スポーツ系の研究科では、「その他」が2～3割と高い。

◆職業別就職率<図表3・4>

学士課程卒業後の職業別就職率は、全体的に「事務従事者」と「販売従事者」の割合が高いが、教育系（国公立のみ）を除く文系の学部では「事務従事者」と「販売従事者」の2つで6割以上を占める。工学系は77%が「技術者」として就職している一方、農、理学系については「技術者」が3割と5割程度であり、「事務従事者」

<図表2> 2019年度修士課程等修了後の進路概況



※臨床研修医は1%未満のため、数値を省略している。
※系統全体で10名に満たない「歯学系」は掲載していない。

(注3)「大学院等進学者」は、「大学院研究科」「大学学部」「短期大学本科」「専攻科」「別科」「専修学校・外国の学校等入学者」の合計。「就職者等」は、「自営業主等」「無期雇用労働者」「有期雇用労働者」「臨時労働者」の合計。「臨床研修医」は予定者も含む。「その他」は、「左記以外の者」「不詳・死亡の者」の合計。
(注4)河合塾の分類による。

「販売従事者」の割合が工学系に比べて高い。薬学系、保健系では、「医療従事者」が7割以上と高くなっている。

修士課程等修了後の就職者は、学士課程卒業後に比べて、専門に関連した就職をする割合が高い。特に理系の研究科でその傾向は強いいため、自身の専門を生かして社会で活躍することを希望する生徒は、大学院進学も視野に入れておくとよいだろう。

修士課程等修了後の職業別就職率については、教育系(国公立のみ)を除く文系の研究科では、「事務従事者」の割合が高いという傾向は学士課程卒業者と同様だが、「販売従事者」は10%前後と学士課程卒業者と比べて低くなる。また、文・人文系では、図書館司書や学芸員、カウンセラーなどが含まれる「その他の専門的・技術的職業従事者」の割合が高い。理、工、農学系では、「技術者」が半数以上と高い。

◆産業別就職率<図表5・6>

学士課程卒業後の産業別就職率については、教育系(国公立のみ)を除く文系の学部では「卸売業・小売業」が15~20%と高い。教育系(国公立のみ)では「教育・学習支援業」が61%、法・政治学系では「公務」が17%を占める。理、工、農学系では「製造業」の割合が高い。薬学系では、調剤薬局やドラッグストア等が含まれる「卸売業・小売業」、病院等の「医療業・保健衛生」が高くなっている。

修士課程等修了後の産業別就職率について、15%以上の部分(赤色)に注目すると、学士課程卒業後と比べて「卸売業・小売業」「その他サービス業」で15%以上の系統がなくなり、「製造業」「学術研究,専門・技術サービス業」「教育・学習支援業」「医療業・保健衛生」で15%以上の系統が増えている。先述のように修士課程等修了

<図表3> 2019年度学士課程卒業後の職業別就職率

学部系統	職業					管理的職業従事者	事務従事者	販売従事者	サービス職業従事者	保安職業従事者	農林漁業従事者	生産工程従事者	輸送・機械運転従事者	その他	合計
	研究者	技術者	教員	医療従事者	その他										
文・人文	0%	7%	11%	0%	9%	1%	34%	26%	9%	1%	0%	0%	0%	2%	100%
社会・国際	0%	6%	2%	1%	9%	1%	36%	30%	9%	1%	0%	0%	0%	3%	100%
法・政治	0%	7%	1%	0%	3%	1%	48%	28%	4%	5%	0%	0%	1%	2%	100%
経済・経営・商	0%	9%	0%	0%	3%	1%	39%	38%	5%	1%	0%	1%	0%	3%	100%
教育※国公立のみ	0%	4%	56%	0%	7%	0%	20%	8%	3%	1%	0%	0%	0%	1%	100%
理	0%	48%	6%	2%	3%	0%	18%	14%	3%	1%	0%	1%	0%	3%	100%
工	0%	77%	1%	0%	2%	0%	6%	7%	2%	1%	0%	1%	0%	2%	100%
農	1%	29%	1%	8%	3%	0%	17%	26%	5%	1%	3%	3%	0%	2%	100%
薬	1%	5%	0%	75%	1%	0%	5%	10%	2%	0%	0%	0%	0%	1%	100%
保健	0%	1%	1%	86%	2%	0%	2%	4%	2%	1%	0%	0%	0%	0%	100%
生活科学	0%	9%	11%	24%	11%	0%	17%	19%	5%	0%	0%	1%	0%	3%	100%
芸術・スポーツ科学	0%	6%	8%	1%	23%	0%	18%	26%	8%	5%	0%	1%	0%	2%	100%
総合・環境・人間・情報	0%	23%	2%	1%	5%	0%	35%	25%	5%	1%	0%	1%	0%	2%	100%
全体	0%	17%	5%	10%	6%	1%	27%	24%	5%	1%	0%	1%	0%	2%	100%

<図表4> 2019年度修士課程等修了後の職業別就職率

学部系統	職業					管理的職業従事者	事務従事者	販売従事者	サービス職業従事者	保安職業従事者	農林漁業従事者	生産工程従事者	輸送・機械運転従事者	その他	合計
	研究者	技術者	教員	医療従事者	その他										
文・人文	2%	14%	16%	3%	18%	1%	25%	7%	4%	0%	0%	0%	0%	8%	100%
社会・国際	1%	12%	6%	3%	14%	3%	42%	8%	3%	0%	0%	0%	0%	8%	100%
法・政治	1%	8%	1%	0%	15%	2%	53%	8%	1%	0%	0%	0%	0%	11%	100%
経済・経営・商	0%	13%	2%	1%	8%	9%	41%	11%	3%	0%	0%	0%	0%	11%	100%
教育※国公立のみ	0%	3%	65%	2%	12%	0%	10%	3%	3%	0%	0%	0%	0%	2%	100%
理	7%	75%	2%	0%	2%	0%	7%	2%	1%	0%	0%	0%	0%	3%	100%
工	5%	83%	0%	0%	2%	1%	2%	1%	1%	0%	0%	0%	0%	3%	100%
農	13%	51%	1%	1%	3%	2%	8%	7%	2%	0%	1%	2%	0%	6%	100%
医	7%	26%	5%	46%	2%	2%	5%	1%	1%	0%	0%	0%	0%	4%	100%
薬	31%	37%	1%	4%	4%	1%	7%	5%	2%	0%	0%	2%	0%	6%	100%
保健	2%	5%	15%	72%	1%	0%	2%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	1%	100%
医歯薬保健一体型	20%	28%	2%	27%	10%	0%	5%	4%	2%	0%	0%	1%	0%	2%	100%
生活科学	5%	37%	12%	14%	11%	1%	7%	7%	4%	0%	0%	2%	0%	1%	100%
芸術・スポーツ科学	1%	15%	14%	1%	39%	1%	17%	5%	3%	0%	0%	1%	0%	4%	100%
総合・環境・人間・情報	6%	61%	4%	3%	6%	1%	8%	3%	3%	0%	0%	0%	0%	5%	100%
全体	6%	60%	5%	4%	5%	1%	10%	3%	1%	0%	0%	0%	0%	4%	100%

※15%以上の職業・産業に色付け。学士課程の「医・歯」、修士課程の「歯」は合計人数が150名以下だったため、掲載せず。

後の就職者は、専門に関連した就職をする割合が高いことが、産業別就職率からもうかがえる。具体的には、教育系（国公立のみ）で「教育・学習支援業」が72%と特に高く、理、工、農、薬学系では「製造業」が高い。

◆データを見る際の留意点

ここまで、状況別卒業生数と職業別・産業別就職率の特徴を見てきたが、最終的には、進学を希望する大学について、具体的に調べる必要がある。これらのデータをどのように大学選びに活用できるのか。

職業別就職率については、例えば、専門性を生かした就職をしたい生徒は、「専門的・技術的職業従事者」の「研究者」「技術者」「教員」などに注目するとよいだろう。一方、「事務・販売従事者」は専門性を生かしていないと考えられがちだが、「事務・販売従事者」が多い大学には、多様な進路希望を持つ学生が多く、大学でも、幅広い業務

で求められるような汎用的な能力を育成している場合もある。社会人に必要な力をどのように育成しているのか、カリキュラムやプログラムについて調べるとよいだろう。産業別就職率は、学部系統による傾向だけではなく、個々の大学による違いも大きいので、キャンパス所在地の産業構造の特性や、取得できる資格と就職支援の状況などについても調べたい。

また、職業別・産業別就職率はあくまで全体的な傾向なので、個々の生徒の大学の卒業後の進路をイメージするためには、卒業生の就職先の企業等や、卒業生の体験談なども参考にしたい。

上記の点に注目しながら、大学のホームページやパンフレットで調べたり、オープンキャンパス等で質問したりすることで、大学卒業後のキャリア形成も意識し、学部・学科選びや大学選びの幅が広がるのではないかな。

<図表5> 2019年度学士課程卒業後の産業別就職率

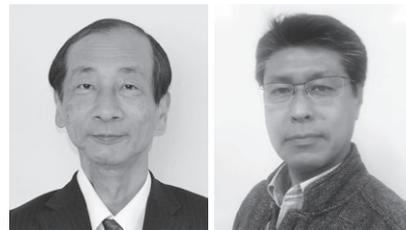
学部系統	産業																合計
	漁業・林業・鉱業等	建設業	製造業	熱供給・水道業	電気・ガス・情報通信業	運輸業・郵便業	卸売業・小売業	金融業・保険業	物品賃貸業	不動産業	技術サービス業	学術研究専門・学習支援業	教育・保健衛生	医療業・福祉・介護事業	社会保険・社会サービス業	その他の	
文・人文	0%	2%	8%	0%	10%	6%	17%	6%	3%	3%	13%	2%	6%	16%	5%	1%	100%
社会・国際	0%	3%	10%	0%	11%	5%	17%	7%	4%	4%	4%	3%	8%	16%	5%	2%	100%
法・政治	0%	4%	10%	1%	11%	4%	15%	12%	5%	5%	2%	1%	1%	11%	17%	1%	100%
経済・経営・商	0%	5%	11%	1%	13%	4%	20%	12%	6%	5%	1%	1%	1%	13%	5%	2%	100%
教育※国公立のみ	0%	1%	3%	0%	6%	1%	4%	3%	1%	1%	61%	0%	3%	5%	9%	0%	100%
理	0%	5%	20%	1%	22%	2%	9%	4%	2%	5%	7%	3%	1%	12%	7%	1%	100%
工	0%	17%	28%	1%	20%	3%	5%	1%	2%	6%	2%	1%	0%	10%	5%	1%	100%
農	4%	4%	22%	0%	7%	2%	16%	3%	1%	9%	3%	1%	1%	14%	11%	1%	100%
薬	0%	1%	9%	0%	1%	1%	52%	1%	1%	2%	2%	24%	1%	3%	3%	0%	100%
保健	0%	0%	2%	0%	1%	0%	2%	0%	0%	0%	2%	82%	3%	3%	3%	0%	100%
生活科学	0%	5%	8%	0%	4%	1%	18%	2%	2%	2%	13%	9%	15%	17%	3%	1%	100%
芸術・スポーツ科学	0%	4%	11%	0%	10%	2%	15%	3%	3%	8%	11%	2%	2%	20%	6%	1%	100%
総合・環境・人間・情報	0%	4%	11%	1%	22%	4%	15%	7%	3%	5%	3%	1%	2%	16%	5%	1%	100%
全体	0%	5%	12%	1%	12%	4%	15%	6%	3%	4%	7%	8%	3%	13%	6%	1%	100%

<図表6> 2019年度修士課程等修了後の産業別就職率

学部系統	産業																合計
	漁業・林業・鉱業等	建設業	製造業	熱供給・水道業	電気・ガス・情報通信業	運輸業・郵便業	卸売業・小売業	金融業・保険業	物品賃貸業	不動産業	技術サービス業	学術研究専門・学習支援業	教育・保健衛生	医療業・福祉・介護事業	社会保険・社会サービス業	その他の	
文・人文	0%	1%	10%	0%	14%	1%	6%	1%	1%	5%	24%	4%	5%	10%	11%	5%	100%
社会・国際	0%	1%	11%	0%	15%	2%	6%	3%	1%	8%	11%	3%	5%	11%	11%	12%	100%
法・政治	0%	1%	9%	0%	12%	1%	5%	4%	1%	30%	3%	1%	1%	9%	11%	10%	100%
経済・経営・商	0%	1%	13%	0%	14%	2%	8%	9%	2%	21%	4%	2%	1%	8%	4%	10%	100%
教育※国公立のみ	0%	0%	3%	0%	4%	1%	1%	1%	0%	2%	72%	2%	4%	4%	5%	1%	100%
理	0%	5%	55%	2%	15%	2%	2%	1%	1%	7%	2%	1%	0%	3%	2%	1%	100%
工	0%	7%	58%	3%	14%	2%	2%	1%	1%	6%	1%	0%	0%	3%	2%	1%	100%
農	4%	2%	46%	1%	9%	1%	6%	2%	1%	10%	2%	1%	0%	7%	8%	1%	100%
医	0%	1%	25%	0%	5%	1%	2%	0%	0%	6%	6%	45%	1%	2%	4%	2%	100%
薬	0%	0%	69%	0%	2%	0%	3%	1%	0%	10%	1%	6%	0%	5%	1%	2%	100%
保健	0%	0%	6%	0%	1%	0%	1%	0%	0%	1%	16%	69%	2%	1%	3%	1%	100%
医歯薬保健一体型	0%	0%	45%	0%	6%	0%	2%	1%	0%	11%	3%	26%	1%	3%	2%	1%	100%
生活科学	0%	11%	27%	0%	3%	1%	4%	0%	1%	8%	16%	12%	5%	5%	5%	2%	100%
芸術・スポーツ科学	0%	4%	13%	0%	11%	1%	5%	1%	1%	21%	22%	2%	1%	12%	3%	4%	100%
総合・環境・人間・情報	0%	5%	31%	3%	27%	1%	3%	1%	1%	8%	5%	3%	1%	5%	4%	3%	100%
全体	1%	4%	44%	2%	14%	2%	3%	2%	1%	8%	6%	4%	1%	4%	3%	2%	100%

※15%以上の職業・産業に色付け。学士課程の「医・歯」、修士課程の「歯」は合計人数が150名以下だったため、掲載せず。
 ※<図表1～6>とも朝日新聞社×河合塾「ひらく 日本の大学」2020年度調査より。

伝統ある実学重視の技術者教育 同窓会組織の支援で 海外大学との研究室交流も



木村元彦 副学部長 福田充宏 教授

静岡大学工学部は、製造業が集まる浜松の地で、長年にわたりエンジニアの育成を行ってきた。2022年には前身の浜松高等工業学校の設立から100周年を迎えるなどの歴史と伝統を持つ^(注)。現在も「ものづくり」を基盤とした実学教育で優れた技術者を輩出しつつ、グローバルなエンジニアの育成に向けて、新しい試みも行われている。これらの取り組みについて、木村元彦副学部長と学部長補佐で教育企画室室長の福田充宏教授にお話をうかがった。

工学部卒業生の就職は9割以上が技術者 大学院への進学率も6割を超える

静岡大学工学部の卒業生は62%が大学院へ進学しており、37%の就職者のうち職業別就職率では91%が技術者となっている<図1、2>。就職先地区は、学部卒・大学院卒（以下、修士課程修了者を示す）ともに、8割以上が東海と関東である。福田教授は「学部卒業生の大学院進学率60%台というのは、地方国立大学の工学系としては一般的です。学部卒の場合、産業別就職率では約7割が製造業に就職しています。製造業以外でも情報通信業や運輸業（鉄道会社、航空会社など）で技術系の仕事に就いています」と、製造業以外でもほぼ技術者として就職しているのが現状だと言う。大学院総合科学技術研究科工学専攻修了生（修士課程）では就職者が95%で、学部卒と同様にそのほとんどが技術者として就職している。また、大学院卒になると「産業別就職率は製造業が約9割となり、いわゆるメーカーでの技術者が標準的な進路です」と話す。

製造業が集積する浜松地区 世界に名だたるメーカーも多い

浜松市は伝統的にもものづくりの盛んな地域で、繊維、楽器、輸送用機器の三大産業を中心に発展してきた。中で

も二輪車産業は国内4大バイクメーカーのうち3社が浜松発祥だ。また、近年では光・電子技術関連の高度な技術の集積が進んでおり、静岡大学もその歴史の一翼を担っている。今から約100年前、前身である旧制浜松高等工業学校の高柳健次郎先生が世界で初めてのテレビ実験を行った。木村副学部長も「現在では8Kによるテレビ放送が始まっていますが、その基幹技術であるイメージセンサー（＝撮像素子）も静岡大学工学部発の技術です。テレビ技術の多くの原理は、この浜松キャンパスで発明されているのです」と語り、技術開発の伝統に自信をのぞかせる。

ところで、前述のように学生の就職先は東海地区も多いが、学生の出身地も静岡県と愛知県で半数以上を占めている。愛知県もまた自動車産業をはじめとする輸送産業が盛んな地域のため、福田教授は「就職に関していえば、学生たちは特段に地元志向ということはありませんが、結果として、ものづくりが盛んな地域から来た学生が、ものづくりが盛んな地域に就職していることになります」と話す。東海地区は自動車などの完成品メーカーに加えて、部品などを供給する1次サプライヤー、2次サプライヤーも多い。つまり、製造業の企業数も多いのだ。そのため、結果として当該地域へ技術者として就職する者も多くなるのだ。

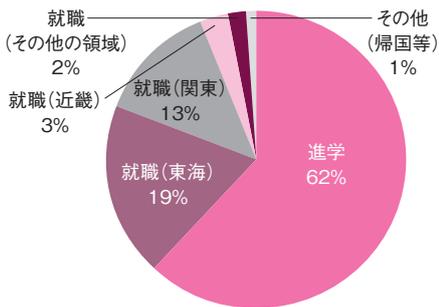
1年次のものづくり実習は 年間を通してチームで取り組む

静岡大学工学部は、アドミッションポリシーでも、「『ものづくり』を基盤とした基礎力と実践力を備え、地域社会や産業分野でリーダーとして活躍し世界にはばたく人材を育成」することや、「技術者として活躍できるための素地を培う実学重視の教育を行う」ことなどを掲げている。さらに、入学を期待する学生像として「『ものづくり』に興味があり、何事にも協調性を持ちながら積極的に立ち向かう人」などを示している。

工学部のカリキュラムはものづくりを基盤として編成されており、ジェネラリストとスペシャリストの特徴を

(注) 静岡大学浜松キャンパス100周年記念事業HP <https://www.shizuoka.ac.jp/hamacam100/>

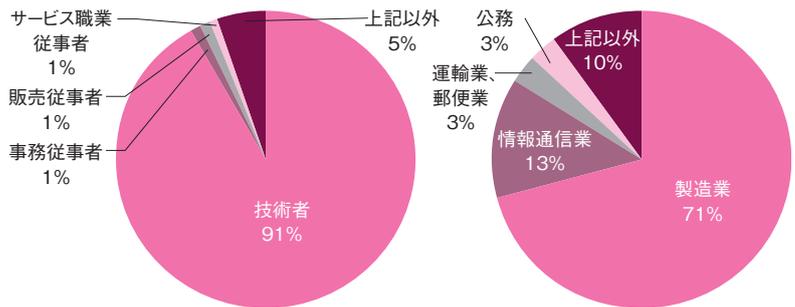
<図1> 2019年度工学部卒業生の進路



(静岡大学工学部2021学部案内より)

※就職先の詳細は、静岡大学就職支援のHP参照
(<https://www.career.ipc.shizuoka.ac.jp/students/data/>)

<図2> 2019年度工学部卒業生 職業別・産業別就職率



※大学改革支援・学位授与機構「大学基本情報」(<https://portal.niad.ac.jp/ptrt/table.html>)をもとに加工して作成

併せ持つ「T型エンジニア」を育成するため、自学科だけでなく他学科の概論の履修や学科混成で行う授業など、幅広い知識や視野を持たせる工夫がある。中でも特徴的な科目として1年次前期の「工学基礎実習」と後期の「創造教育実習」がある。この科目はいわば、ものづくり実習で、1年生全員が履修する。授業は前後期を合わせて3つのタームで構成されており、「学習」タームでは、デジタル回路やロボット制御プログラミングを学ぶ。「製作」タームでは、コンピュータ制御の三輪自律走行型ロボットを1人1台製作する。「創造」タームでは、テーマとして与えられた課題にチームで挑戦する全員参加のイベント、ロボットコンテストが行われる。1チームは全学科の学生が混在するように8名で編成され、課題をクリアするために学生たちが協力して取り組み、優勝チームの表彰も行われる。なお、コンテストは一般公開で行われるため、学外者も訪れることができる。

この他、卒業生の話を聞き、技術者としてのライフプランや大学生活の行動計画を自ら考えたり、産業界で活躍する方々を招いて、技術開発や製品開発についての経験や課題解決に至ったプロセスを学んだりする講義も実施するなど、技術者としてのキャリア形成も意識している。

グローバル・エンジニア育成につながる 海外研究室交流プログラム(SSSV)

現在、企業の海外展開に伴い、技術者にもグローバルな人材が求められている。工学部ではそのためのさまざまなプログラムを実施しているが、中でも「海外研究室交流プログラム(SSSV/Short Stay Short Visit)」は特徴的な取り組みだ。このプログラムは研究室単位で行われるため、4年生と大学院生が対象となる。「海外の大学や研究機関の研究室との交流プログラムで、海外に学生を派遣するほか、海外の大学から外国人学生を研究室に受け入れ、研究を通じた交流を行います」(福田教授)と

工学系ならではのプログラムとなっている。期間は約2週間で短めとはいえ費用負担が気になるところだが、そこは同窓会の支援が大きいという。「費用の一部は大学も負担していますが、浜松工業会という浜松キャンパス(工学部、情報学部)の同窓会を通じた同窓生からの寄付によって、費用の大半を支援することができています」(木村副学部長)と同窓会組織による手厚いサポートもこのプログラムの特徴の一つだ。また、大学院で英語のみで修了可能なプログラムを始めたことで、外国人留学生が増え、日本人学生との交流も日常の光景となってきているようだ。

就職時における学部卒と大学院卒の違いは 企業により異なる

ところで、就職の際、学部卒と大学院卒では、技術者として求められる業務や役割は異なるのだろうか。福田教授は「企業側はほとんど区別していませんが、希望する企業に就職できる割合は大学院卒の方が高いように思います。また、大学院卒の方が開発業務に携わる割合は多くなりますが、ただ、それは企業によって異なります」と一定の傾向はあるものの明確な違いはなさそうだ。しかし、「就職活動の際、学部生は卒業研究が始まるころに面接を受けることになります。その点では大学院生の方が自分の研究内容や成果などについてのアピールができるため、合格し易いのかもかもしれません」とも話し、研究経験の差が影響する場合もあるようだ。

最後に、福田教授はイギリスの哲学者フランシス・ベーコンの言葉を引用しつつ、「工学は自然の原理を応用して、人類の福利に貢献する学問です。自分が考えたもの、作ったもの、関わったもので世の中をより良く変えていくことができます。SDGsに対しても技術的に大きく貢献できます。高校生にはぜひとも将来の夢を感じてもらいたい」と学問としての工学と職業としての技術者の魅力を力強く語った。

広島修道大学 商学部

地域の産業構造を踏まえたカリキュラムと 経済界との強い絆が生み出す就職実績

広島修道大学は、中国・四国地区を代表する私立大学で、7学部を擁し、卒業生は7万人を超える、地域で存在感のある伝統校だ。中でも商学部は、地域の産業構造を踏まえたコース制、会計や金融の特別プログラムなど特色あるカリキュラムで人材育成を行い、「卸売業・小売業」「サービス業」を中心に幅広い業種に卒業生を輩出している。こうした商学部の取り組みについて岡田行正教授にお話をうかがった。

地域経済の発展に資するため 経済界からの要請によって設立された大学

広島修道大学は、広島藩の藩校「講学所」をルーツに持ち、広島経済界からの要請を受けて1960年に商科大学として設置されたという経緯がある。そのため、地域との結びつきが強く、伝統的に地域経済の発展や活性化に資する人材の育成を行ってきた。商学部の学生の出身地は広島県が約8割と地元からの進学者が多く、残りの約2割は島根県、山口県、岡山県、愛媛県からの学生である。そのため、就職先も広島県内の企業が最も多く、岡田教授も「学生の55%から60%が県内企業に就職します。また、関東や関西のいわゆる全国型の企業にも毎年一定数が就職します」と就職先の特徴について話す。

広島県は経済規模が大きく企業数も多い。さらに大学開学の経緯から広島経済界との結びつきも強いので、地元就職を志向する多くの学生の希望に合う結果が得られているのだろう。この他には「公務員になる学生も少なくありません。また、採用数は少ないものの公立高校の商業科の教員になる学生もいます。本学は伝統的に商業科教員の養成を行ってきたので、広島県内の商業高校の商業科教員は大半が本学の出身者です」（岡田教授）と意外な一面も見えた。

「卸売業・小売業」「サービス業」を中心に 幅広い業種に卒業生を輩出

広島県は歴史的に重工業が強い地域で、鉄鋼、造船、自動車と、時代と共に製造業が発展してきた。こうした

重厚長大産業は関連企業も含めると企業数も多い。そのため、岡田教授も「他地域の大学と比べると文系学生でも製造業への就職割合が高くなっています」と話す。ただ、近年の産業構造の変化によって、大学全体、また商学部としても、産業別就職率は「卸売業・小売業」「サービス業」の割合が高くなっている<図1>。また、学部の特徴として「金融業・保険業」の割合も多い。



岡田行正 教授

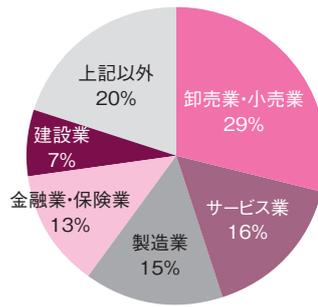
なお、職業別就職率では、「販売従事者」「事務従事者」が多くなっている<図2>が、これは文部科学省の学校基本調査による分類のため、見方には注意が必要だ。同分類はかなり大括りになっており、「事務従事者」には企業で行われるほとんどの仕事が含まれている。また、「販売従事者」には有価証券など金融業での販売・営業の他、不動産、製造業の営業なども含まれている。学校基本調査の「販売従事者」とは、家電量販店など、小売業の店頭販売の従事者ということだけではなく、幅広い業種を含んだ分類といえる。

このように、製造業にも一定の就職者がいることが地域的な特徴の一つでもあるが、岡田教授は「広島県は他府県に比べれば、製造業が強いのですが、ただ、産業構造自体が変化しており、第二次産業から第三次産業にシフトしています。そして、多くの学生が第三次産業に従事するという事は商学部の教員全員が認識しています。そのため、商学部では『卸売業・小売業』『サービス業』『金融業・保険業』などを念頭に複数のコースを設定したカリキュラムとなっています」と商学部の学びと人材輩出との関係を指摘する。

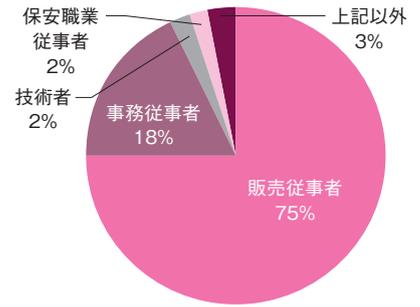
地域の産業構造を踏まえたコース制と 特別ゼミナール

商学部のカリキュラムでは、学生は入学後に自由にコースを選択できる。各自の志向に合わせ、それぞれのコースに設定されている科目群の中から、認定された科目を履修し単位取得すれば、それぞれのコースを修了したことになる。希望すれば複数のコースを学ぶこともでき、

＜図1＞2019年度 広島修道大学 商学部 産業別就職率



＜図2＞2019年度 広島修道大学 商学部 職業別就職率



〔「ひらく 日本の大学」2020年度調査より〕

履修モデルと考えることもできる。現在、商学部では下記のコースが設定されている。

◆商学科

- 流通・マーケティングコース
- 地域・観光コース
- 金融ビジネスコース
- 国際ビジネスコース

◆経営学科

- ビジネス・マネジメントコース
- 会計コース
- 起業・事業承継コース

コースの中には地域特性を反映した特徴的なものもある。広島県には厳島神社と原爆ドームという2つの世界遺産がある。そのため、「地域・観光コース」も設定されている。「広島県の学生なのだから、他地域から来た方々に広島のことをきちんと説明してほしい。できれば日本語ではなく他の言語で案内ができることが望ましい」（岡田教授）と話す。こうしたことから、英語が必修であることに加えて、初修外国語（第二外国語）も必修にしている。初修外国語はドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国・朝鮮語が設置されている。また、「海外ビジネス研修」（中国・大連）や「旅行業務海外研修」（オーストラリア）といった、地域観光や貿易・国際ビジネスを意識した科目も開講されている。

この他にも、広島県に本社を置く企業の社長数で、同大学出身者が最多（2020年度調査）であるなどの特徴から、「起業・事業承継コース」が設置されている。岡田教授は「事業承継は現在の日本では全国的にも深刻な問題です。後継者育成を通じて、地域経済の活性化に貢献したい」と設置の意図を語る。

さらに特徴的なのが、経営学科の会計学教員全員で担当する会計特別ゼミナールだ。同ゼミナールは、税理士や公認会計士を志望する学生を対象に1年次から授業が始まる。学ぶ内容は学年進行と共に難化していき、3年次、4年次では特殊講義としてレベル別に授業を行う。1つのレベルは20人程度の少人数で授業が行われるため、かなり手厚い指導が行われている。教員の授業負担は重いが、意欲のある学生にとっては力が付く仕組みだ。この他に学外の実務家を招いて金融を学ぶプログラムなども実施されているが、「大規模大学ではここまで細やか

な対応は難しいのではないのでしょうか」と中規模大学ならではの強みだと話す。

▶全学でキャリア教育は必修

▶商学部オリジナルのキャリア教育プログラムも

広島修道大学では、キャリア教育科目も1年次から全員必修だ。「キャリア教育にはこれが正解だと言えるものはありませんが、自分で考えたり、選択したり、行動したりする力を身につけてほしいため、授業は講義よりもむしろグループワーク中心です」とのことだ。さらに「学生の気質も変わりますので、それに合わせて授業内容も変えていかなくてはなりません。本学ならではのオリジナルのキャリア教育を念頭に置いています」と話す。汎用的な能力・態度・志向を測定するPROGテスト^{（注1）}も受験料を大学負担で全員が受験する。また、単位が認定される科目として、インターンシップも設けられているが、1999年度に商学部が先駆けて開講したものが、全学に展開された。

こうした全学でのキャリア教育に加えて、各学部でも独自の教育が行われている。商学部でも2年次以降も学部独自のキャリア教育科目が設置されており、特色ある科目としては、連合広島^{（注2）}による寄付講座「働くこととワークルール」がある。この寄付講座は現在、全国25大学で開講されており、広島県では同大学だけである。労働環境や労働条件などについて学ぶことで、学生たちがブラック企業やブラックアルバイトに巻き込まれることを防止する狙いがある。

最後に岡田教授は、大学での学びを通じて、社会人として必要な力を身につけることが大切だとした上で、「さまざまな大学がありますが、どのような大学生活を送りたいか、将来のことも含めて進路を考えると良いでしょう。大学卒業後の進路は無敵大です」と高校生へのメッセージを語った。

（注1）PROGテスト：河合塾とリアセックが共同開発したジェネリックスキルの成長を支援するアセスメントプログラム。

（注2）連合広島：1990年1月31日に結成された、広島県内最大の労働組合の連合体。